

労働時間が仕事満足度・幸福度に与える影響

The Effect of Work Hours on Job Satisfaction and Happiness

宗 健 株式会社リクルート住まいカンパニー 住まい研究所
SO Takeshi Recruit Sumai Company Ltd. Housing Institute

要旨: 本稿では、首都圏1万人のアンケート調査の結果から、労働時間が仕事満足度・主観的幸福度に与える影響を報告する。分析結果は以下の通りである。1) 主観的幸福度に対する仕事満足度の影響は比較的小さく、住まいの満足度・家族関係の満足度等が大きな影響を与えている。2) 仕事満足度に対する労働時間の影響は比較的小さく、労働環境への安心感や自己成長感が大きな影響を及ぼしている。これらの結果から、企業の働き方改革には、労働時間短縮・適正化への取り組みと同時に、職場の人間関係や仕事そのものへの理解度を高めるといった取り組みも必要であることが強く示唆されている。

キーワード: 労働時間、仕事満足度、幸福度

Abstract: I will report the effect that work hours have on job satisfaction and subjective happiness based on the survey conducted among 10,000 respondents in the Tokyo Metropolitan area. The analysis results are as follows. The effect of job satisfaction on subjective happiness is relatively small while the satisfaction with the residence, satisfaction with family relations, etc. have large effects. The effect of work hours on job satisfaction is relatively small while the sense of security toward the work environment and the sense of self-growth have large effects. It is strongly suggested that the reforms on the way of work at corporations need to include initiatives such as increasing the understanding of the human relationship at workplace and the jobs themselves.

Keywords: Work Hours, Job Satisfaction, Happiness

1. 研究の背景および目的

近年、過労死問題が社会で注目を浴びており働き方改革の議論が盛んに行われている。なかでもワークライフバランスの観点から労働時間をいかに短縮しつつ、生産性を上げていくかが課題となっている。

また現在、国会では「高度プロフェッショナル制度」を含む法案が審議されている。

本研究では、そのような背景から労働時間が仕事満足度や幸福度に与える影響をアンケート調査によって実証的に分析することで、今後の働き方改革に向けた基礎情報を得ること、幸福度を高めるための示唆を得ることが目的である。

2. 先行研究のレビュー

主観的幸福度の研究はまだ歴史が浅いが、大竹ら(2010)¹⁾は、労働時間が長くなればなるほど平均的な幸福度は低下するが90時間以上労働している場合は平均的な幸福度が他よりも高い(ただしサンプル数が少ない)と報告している。

大園(2009)²⁾は、ITエンジニアを対象とした分析で、労働時間が職務満足度に与える負の影響は強くはないと指摘し、浅野・権丈(2011)³⁾は、日英独の比較を行い日本では長時間労働者が多く労働時間満足度も生活満足度も低く、長時間労働は労働満足度も生活満足度も有意に低くする影響があると指摘している。

3. 研究の方法

研究は、首都圏在住者に対して学歴や就業状態・家族形態、居住形態などの個人属性、主観的幸福度や仕事満足度・地域満足度・建物満足度などを聞き、さらに各満足度について細分化した設問を設定したアンケート調査を基にしている。

今回の調査は、インターネットを利用して回答を得ているが、リクルートワークス研究所の全国就業実態パネル調査(JPSED)⁴⁾の標本設計^{註1)}に準拠して性別・年齢帯・就業状況等で割付した256区分に回答者を割り付けて、回答者数も労働力調査の分布の比率を目標として、差分はウェイトバックしている。

調査は2017年8月28日に行い一都三県在住の12,821名から有効回答を得た。アンケートの配布・回収は株式会社インテージに委託した。

分析は、クロス集計では各種変数が統制されないため順序プロビット分析を行う。

まず、主観的幸福度を目的変数として各種満足度や年収等の個人属性を説明変数として分析を行い、そもそも仕事の満足度が幸福度にどの程度の影響を与えているのかを明らかにする。

その上で、仕事の満足度に対して労働時間がどのような影響を与えているのかを、仕事満足度を目的変数として、労働時間等の説明変数を用いて順序プロビット分析を行うことで明らかにする。

さらに属性や年収等によってそれらの構造がどのように変化するかについても分析を行う。

4. 分析結果

(1) 幸福度に与える各種満足度等の影響

表1は幸福度(10点満点)を目的変数に各種満足度(10点満点)及び年齢・性別・未既婚・子供の有無・孫の有無・世帯年収・世帯貯金・住居形態・週労働時間を説明変数に順序プロビット分析を行った結果である。

幸福度の平均を見ると、全体では6.78である。年齢別では65歳以上が7.42と高く、女性が6.98・既婚が7.21・子供ありが7.17・孫ありが7.46とそれぞれ高い。世帯年収が800万円を超えると、世帯貯金は500万円を超えると7を超え、持ち家は7.16と高い。週労働時間では20時間未満が6.83とやや高いがそれ以外ではあまり差は見られない。

このようなクロス集計としての平均は、変数が統制されていないため、差が集計対象の項目の差とは限らない。

変数が統制されたプロビット分析の全体では、10%有意水準以上で「地域満足度」「家族関係満足度」「健康満足度」「才能満足度」「将来楽観度」が係数0.1を超えている。

年齢が上がるに従って係数のマイナスが大きくなり、女性のほうが、既婚のほうが子供ありのほうが

表1 幸福度のプロビット分析結果

	平均	全体	男性	女性	既婚	未婚	子どもあり	子どもなし	60時間以上	1000万以上	
		Coef. P>t									
目的変数:幸福度(平均)	6.78	6.78	6.58	6.98	7.21	6.19	7.17	6.32	6.46	7.45	
各種満足度	地域満足度	6.41	0.11 0.0%	0.12 0.0%	0.10 0.0%	0.11 0.0%	0.10 0.0%	0.12 0.0%	0.09 0.0%	0.19 0.0%	0.21 0.1%
	建物満足度	6.08	0.08 0.0%	0.07 0.0%	0.08 0.0%	0.09 0.0%	0.07 0.0%	0.08 0.0%	0.08 0.0%	0.09 9.0%	0.07 19.5%
	仕事満足度	5.57	0.03 4.9%	0.07 0.0%	-0.01 66.8%	0.00 83.4%	0.06 0.2%	-0.01 82.0%	0.06 0.0%	0.21 0.0%	0.06 39.2%
	労働時間満足度	5.75	0.04 0.1%	0.04 1.1%	0.04 2.7%	0.02 26.9%	0.07 0.0%	0.02 32.5%	0.07 0.0%	0.11 3.1%	0.10 3.8%
	社会的地位満足度	5.62	0.00 91.6%	-0.02 20.7%	0.02 44.3%	0.01 53.1%	-0.02 26.3%	0.00 81.9%	-0.01 55.1%	-0.01 86.0%	-0.09 9.9%
	収入満足度	5.02	-0.01 64.6%	-0.02 13.3%	0.01 40.5%	-0.02 17.8%	0.00 75.2%	-0.02 39.2%	0.00 93.1%	-0.13 0.3%	-0.14 1.3%
	寛度満足度	5.12	-0.01 34.4%	-0.02 19.3%	-0.01 71.9%	0.03 12.6%	-0.06 1.1%	0.02 38.0%	-0.04 4.4%	0.01 89.0%	0.06 51.6%
	家族関係満足度	6.36	0.11 0.0%	0.08 0.0%	0.14 0.0%	0.16 0.0%	0.05 0.0%	0.16 0.0%	0.07 0.0%	0.11 6.2%	0.12 9.0%
	仕事人間関係満足度	5.83	-0.02 12.5%	0.00 83.9%	-0.03 8.5%	0.00 94.7%	-0.04 2.2%	-0.01 70.9%	-0.03 5.9%	0.04 46.2%	-0.07 37.4%
	近隣人間関係満足度	5.87	-0.01 47.9%	-0.02 22.7%	-0.01 69.4%	0.01 50.0%	-0.04 3.0%	0.01 69.2%	-0.02 11.8%	-0.02 71.3%	0.01 88.5%
	友人関係満足度	6.27	0.05 0.2%	0.04 2.7%	0.05 1.8%	0.05 5.8%	0.06 0.1%	0.03 27.7%	0.06 0.0%	-0.08 12.8%	0.09 18.1%
	食生活満足度	6.45	0.08 0.0%	0.08 0.0%	0.08 0.0%	0.09 0.0%	0.07 0.0%	0.10 0.0%	0.06 0.0%	0.10 2.6%	0.14 2.7%
	余暇満足度	6.14	0.05 0.1%	0.05 0.4%	0.04 2.2%	0.05 1.1%	0.05 0.1%	0.05 1.8%	0.05 0.2%	-0.04 47.5%	0.05 37.5%
	恋愛婚姻満足度	5.85	0.00 93.0%	0.02 27.6%	-0.01 41.2%	0.02 32.8%	-0.01 45.5%	0.01 61.4%	-0.01 43.8%	0.09 9.0%	0.07 16.7%
	健康満足度	5.95	0.10 0.0%	0.12 0.0%	0.09 0.0%	0.14 0.0%	0.05 0.0%	0.13 0.0%	0.08 0.0%	0.10 3.1%	0.18 0.3%
	見た目満足度	5.47	-0.01 30.8%	-0.02 15.4%	-0.01 50.6%	-0.02 18.3%	0.01 57.4%	-0.02 27.3%	0.00 71.1%	-0.07 12.5%	-0.06 10.6%
	性生活満足度	5.33	-0.05 0.0%	-0.06 0.1%	-0.05 2.2%	-0.05 3.0%	-0.05 0.2%	-0.06 1.9%	-0.04 0.3%	-0.08 7.4%	-0.06 18.2%
	才能満足度	5.14	0.11 0.0%	0.15 0.0%	0.09 0.0%	0.12 0.0%	0.10 0.0%	0.14 0.0%	0.09 0.0%	0.16 0.3%	0.10 18.1%
	生育環境満足度	6.19	0.05 0.0%	0.04 1.2%	0.06 0.0%	0.03 11.2%	0.09 0.0%	0.05 1.0%	0.07 0.0%	0.03 54.9%	-0.01 84.0%
	社会状況満足度	5.11	-0.01 29.0%	0.01 45.6%	0.04 3.1%	-0.02 24.5%	0.00 92.6%	-0.02 23.9%	-0.01 62.2%	-0.12 5.7%	0.05 49.5%
社会状況楽観度	4.89	-0.04 2.1%	-0.02 26.1%	-0.05 4.3%	-0.04 13.8%	-0.03 13.7%	-0.04 12.7%	-0.03 9.4%	0.06 38.9%	-0.10 12.6%	
世界状況楽観度	4.96	-0.02 27.8%	-0.04 2.6%	0.01 80.4%	-0.03 23.3%	0.00 91.2%	-0.02 47.1%	-0.02 32.4%	-0.04 42.2%	-0.02 70.9%	
将来楽観度	5.50	0.11 0.0%	0.09 0.0%	0.11 0.0%	0.08 0.0%	0.13 0.0%	0.09 0.0%	0.12 0.0%	0.00 93.8%	0.09 8.5%	
自己自信度	5.52	0.07 0.0%	0.08 0.0%	0.07 0.6%	0.03 16.4%	0.10 0.0%	0.05 6.7%	0.09 0.0%	0.06 27.1%	0.05 37.1%	
年齢	20-34歳	6.54	baseline								
	35-44歳	6.44	-0.10 0.3%	-0.18 0.0%	-0.01 81.9%	-0.08 15.4%	-0.09 3.9%	-0.08 18.2%	-0.09 1.6%	-0.24 20.1%	0.22 38.8%
	45-54歳	6.48	-0.15 0.0%	-0.24 0.0%	-0.04 47.1%	-0.10 8.0%	-0.17 0.1%	-0.14 3.3%	-0.14 0.2%	-0.32 10.0%	0.28 24.5%
	55-64歳	6.76	-0.18 0.0%	-0.20 0.0%	-0.14 4.9%	-0.15 1.6%	-0.14 3.3%	-0.19 1.0%	-0.12 2.2%	-0.51 4.4%	0.24 33.2%
	65歳以上	7.42	-0.20 1.3%	-0.35 0.0%	-0.06 64.5%	-0.18 9.5%	-0.15 29.2%	-0.17 13.6%	-0.26 5.4%	-0.04 93.7%	-0.18 65.0%
性別	男性	6.58	baseline								
	女性	6.98	0.20 0.0%	(omitted)	(omitted)	0.21 0.3%	0.24 0.0%	0.23 0.3%	0.21 0.0%	0.26 10.7%	0.67 0.2%
未婚	未婚	6.19	baseline								
	結婚	7.21	0.13 0.6%	0.18 0.4%	0.11 11.6%	(omitted)	(omitted)	0.14 14.1%	0.15 0.3%	0.28 10.5%	0.07 75.9%
子供	子どもなし	6.32	baseline								
	子どもあり	7.17	0.11 0.6%	0.05 36.5%	0.14 1.0%	0.13 0.2%	0.15 14.5%	(omitted)	(omitted)	0.35 2.8%	0.03 85.0%
孫有無	孫なし	6.60	baseline								
	孫あり	7.46	-0.09 19.7%	0.07 31.7%	-0.22 6.3%	-0.07 39.1%	-0.26 2.8%	-0.12 13.3%	0.07 78.9%	-0.57 15.7%	0.15 42.5%
個人年収	0-199万	6.75	baseline								
	200-399万	6.71	-0.04 43.3%	-0.10 8.1%	0.02 86.4%	-0.11 18.1%	0.01 91.5%	-0.08 39.9%	0.00 96.4%	0.28 15.8%	(omitted)
	400-599万	6.80	-0.02 72.0%	-0.05 39.5%	0.02 76.7%	0.04 60.4%	-0.07 29.1%	-0.01 88.0%	-0.01 87.4%	0.27 12.4%	(omitted)
	600-799万	7.03	-0.05 35.7%	-0.06 34.6%	-0.14 39.0%	-0.02 77.2%	-0.09 24.0%	-0.06 51.1%	-0.01 85.7%	0.36 6.9%	(omitted)
	800-999万	7.23	0.02 70.2%	0.05 50.3%	-0.37 4.7%	0.06 53.6%	0.05 66.2%	0.07 50.8%	0.02 79.9%	0.80 0.3%	(omitted)
	1000-1199万	6.98	-0.19 5.0%	-0.20 4.8%	0.07 80.7%	-0.18 15.9%	-0.04 80.0%	-0.17 22.8%	-0.13 31.1%	0.79 4.4%	0.05 87.3%
	1200-1499万	7.70	0.02 88.0%	-0.01 96.7%	0.09 69.7%	0.12 42.0%	-0.51 8.4%	0.03 81.6%	0.24 48.8%	0.32 27.6%	0.11 71.8%
	1500-19998万	7.31	-0.01 94.9%	-0.08 64.5%	0.54 25.1%	0.14 52.4%	-0.47 32.6%	0.22 30.1%	-0.16 61.5%	1.32 6.4%	0.18 57.3%
2000-2999万	7.72	0.27 40.7%	0.18 57.6%	1.97 0.0%	0.67 1.4%	-1.85 5.4%	0.49 24.5%	-0.09 68.3%	2.22 0.2%	0.64 4.9%	
3000万以上	5.89	-0.15 60.7%	-0.35 39.9%	0.89 0.1%	-0.75 28.7%	-0.18 33.3%	0.05 84.0%	-0.38 28.5%	0.54 23.4%	(omitted)	
世帯貯金	ゼロ	5.57	baseline								
	1-500万	6.55	-0.07 6.6%	0.01 83.4%	-0.15 1.3%	-0.16 0.7%	0.01 86.4%	-0.21 0.2%	0.04 37.9%	0.04 79.7%	0.32 10.6%
	500-999万	7.00	0.01 91.5%	0.09 19.7%	-0.08 28.9%	-0.02 73.4%	0.04 69.8%	-0.07 39.2%	0.04 54.3%	-0.28 23.2%	0.29 16.9%
	1000-1999万	7.09	0.10 9.4%	0.13 6.3%	0.13 15.6%	0.12 11.6%	0.01 89.6%	0.07 38.4%	0.08 22.4%	-0.07 84.7%	0.54 2.4%
	2000-5000万	7.65	0.17 7.0%	0.16 2.3%	0.16 29.2%	0.09 40.7%	0.30 11.1%	0.02 84.5%	0.36 3.7%	-0.24 31.0%	0.71 0.0%
5000万以上	7.64	0.02 79.6%	0.01 92.4%	0.07 57.9%	-0.07 48.5%	0.22 6.9%	-0.12 28.5%	0.20 5.5%	-1.10 2.3%	0.41 3.1%	
住居形態	持ち家以外	6.38	baseline								
	持ち家	7.16	-0.01 86.6%	0.01 87.6%	-0.02 70.8%	0.03 63.9%	-0.05 34.9%	0.04 50.0%	-0.05 30.3%	-0.12 43.5%	0.11 41.0%
週労働時間	20時間未満	6.83	baseline								
	20-40時間	6.56	-0.08 2.0%	-0.10 5.6%	-0.09 6.1%	-0.07 12.2%	-0.10 4.5%	-0.06 22.8%	-0.12 1.0%	(omitted)	-0.59 1.8%
	40-60時間	6.55	-0.03 49.5%	-0.05 31.5%	-0.03 69.7%	-0.03 58.8%	-0.05 36.9%	-0.01 81.3%	-0.07 15.8%	(omitted)	-0.04 82.8%
60時間以上	6.46	-0.04 62.0%	-0.04 63.6%	-0.32 15.9%	0.09 37.0%	-0.26 5.0%	0.14 21.0%	-0.29 0.8%	(omitted)	0.38 21.7%	

幸福度および各種満足度は10点満点。各種満足度の平均は各項目の平均値。年齢以下の平均は各項目の幸福度平均。列頭の60時間以上は週労働時間、1000万以上は個人年収。P>0.1を背景グレー、係数0.1以上と0.1未満でP<0.1をボールド。幸福度平均は7点以上をボールド、6点未満を背景グレー。項目平均は5.5点未満を背景グレー。全分析軸共通で有意な項目はボールド。カットライン等の数値は省略。

それぞれ有意にプラスの影響がある。孫の有無の影響はなく注2)、個人年収は1000万以上1200万円未満のみマイナスの影響があり、世帯貯金注3)は1000万円以上5000万円未満でプラスの影響があり、持ち家の影響は有意ではない。週あたり労働時間の影響もほとんどみられない。

全体のプロビット分析で差異が大きかった性別・未婚・子ども有無と、属性が特徴的な週60時間以上労働・個人年収1000万円以上で対象を絞り込んで分析すると、係数の違いが多く見られる。

属性別では、週労働時間60時間以上の場合、他の属性と顕著な違いが見られる。

地域満足度・仕事満足度の影響が大きく、労働時間満足度の影響も認められるが、収入満足度はマイナスの影響がある。子供ありの場合はプラスの影響

があり、個人年収600万円以上1200万円未満の場合にプラスの影響があり、1500万円以上3000万円以上の場合には、さらにプラスの影響が大きい。ただし、幸福度の平均自体は全体平均6.78よりもやや低い6.46となっていることから週60時間以上の長時間労働は幸福度自体を下けている可能性があることを示唆している注4)。

個人年収1000万円以上の場合には、地域満足度・健康満足度の影響が比較的大きく、女性ダミーの影響も大きく、世帯貯金の影響も大きくなる。

全属性共通で有意なのは、「地域満足度」「家族関係満足度」「食生活満足度」「健康満足度」であり、仕事関係の満足度の影響は比較的小さいことになる。

また、多くの分析軸で労働時間の影響があまりないことが注目される。

(2) 仕事満足度に労働時間等が与える影響

表2は仕事満足度(10点満点)を目的変数に仕事に関連する各種満足度(5点満点)及び週あたり労働時間・勤続年数・転職年齢・転職意向・性別・未既婚・個人年収・世帯貯金・年齢を説明変数にして順序プロビット分析を行った結果である注5)。

仕事満足度の平均は、全体では10点満点5.57と地域満足度6.41、家族関係満足度6.36などに比べて低い。性別差はあまりなく個人年収1000万円以上では6.67、高度プロフェッショナル対象者注6)では6.90と際だって高くなり、週あたり労働時間が60時間を超える場合でも6.46と高い。

現状の仕事に満足していることが反映されて転職するつもりがない場合6.95と高く、個人年収が600

万円を超えると6を超えるようになる。年齢別では65歳以上が6.06と高い。

プロビットの結果を見ると、「自分の成長につながる」0.31「職場環境は安心」0.35と影響が大きく、この2項目は全分析軸で共通して有意な影響がある。

週あたり労働時間では全体と男性で70時間以上の場合に有意にプラスの影響がある。

個人年収1000万円以上・高度プロフェッショナル対象者・週60時間以上労働者の場合は、全体傾向と大きな違いがある。

60時間以上の場合「労働時間が適切である」の影響が大きく、個人年収の影響が全く見られない。これはいわゆる「やりがいの搾取」注7)である可能性がある。

表2 仕事満足度のプロビット分析結果

	平均	全体 Coef. P>t	男性 Coef. P>t	女性 Coef. P>t	1000万以上 Coef. P>t	高プロ Coef. P>t	60時間以上 Coef. P>t
目的変数:仕事満足度(平均)		5.57	5.53	5.60	6.67	6.90	6.46
各種満足度(5点満点)	出勤・退社時間や休日を自分でコントロールできる	3.10 -0.00 90.1%	0.00 97.1%	-0.01 75.2%	0.08 40.3%	0.02 83.4%	0.01 94.2%
	仕事の段取りや納期等を自分でコントロールできる	3.18 0.05 0.6%	0.06 1.3%	0.04 10.7%	0.12 22.9%	0.13 24.7%	-0.08 34.0%
	自分の成長につながる仕事である	3.05 0.31 0.0%	0.32 0.0%	0.30 0.0%	0.33 0.0%	0.32 0.2%	0.28 0.0%
	労働時間は適切である	3.36 0.12 0.0%	0.13 0.0%	0.10 0.0%	-0.08 42.6%	-0.09 49.8%	0.31 0.1%
	職場環境は安心して働くことができる	3.46 0.35 0.0%	0.32 0.0%	0.38 0.0%	0.49 0.0%	0.51 0.0%	0.29 0.4%
週労働時間	1時間未満	5.48 -0.27 5.2%	-0.31 15.5%	-0.26 13.9%	-2.97 0.0%	-1.39 0.1%	(omitted)
	1時間~20時間未満	6.11 0.07 31.9%	0.09 43.1%	0.00 98.5%	-2.44 1.5%	-0.88 11.5%	(omitted)
	20時間~30時間未満	5.85 0.10 20.1%	0.07 57.0%	0.06 55.4%	-2.10 2.4%	-0.59 24.3%	(omitted)
	30時間~40時間未満	5.71 -0.02 78.6%	0.00 98.5%	-0.06 55.5%	-1.15 18.9%	0.67 1.0%	(omitted)
	40時間~50時間未満	5.60 -0.03 64.8%	-0.03 76.2%	-0.04 68.0%	-1.33 13.0%	0.44 8.7%	(omitted)
	50時間~60時間未満	5.50 0.05 47.7%	0.07 50.1%	-0.05 68.6%	-1.74 4.9%	0.15 59.2%	(omitted)
	60時間~70時間未満	5.70 0.11 21.3%	0.04 70.8%	0.39 1.5%	-1.32 13.9%	0.62 10.0%	(omitted)
	70時間以上	5.61 0.23 1.2%	0.26 2.6%	0.10 65.9%	-1.16 19.9%	0.37 36.2%	(omitted)
	わからない	5.20 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
勤続年数	1年未満	5.48 -0.26 0.5%	-0.33 1.1%	-0.19 15.5%	0.00 99.2%	0.47 41.0%	-1.84 0.2%
	1年~3年未満	5.52 -0.20 2.9%	-0.23 7.4%	-0.15 23.5%	-0.17 73.3%	0.32 57.3%	-1.65 0.3%
	3年~5年未満	5.58 -0.20 2.5%	-0.27 3.5%	-0.14 27.5%	-0.01 98.9%	0.25 60.0%	-1.81 0.1%
	5年~8年未満	5.65 -0.21 2.2%	-0.26 3.8%	-0.16 20.8%	0.38 42.0%	0.96 6.2%	-1.87 0.1%
	8年~10年未満	5.64 -0.24 1.3%	-0.30 2.6%	-0.18 17.9%	-0.39 40.4%	0.04 93.4%	-1.82 0.1%
	10年以上	5.87 -0.29 0.1%	-0.35 0.4%	-0.22 7.3%	-0.10 80.4%	0.26 53.5%	-2.09 0.0%
		わからない	5.21 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
転職回数	0回(転職したことはない)	5.75 0.07 30.6%	0.15 17.0%	-0.01 88.0%	0.30 65.9%	-0.56 7.5%	-0.52 20.3%
	1回	5.84 0.06 37.6%	0.12 26.4%	0.02 78.3%	0.66 33.9%	-0.06 85.2%	-0.71 7.9%
	2~3回	5.75 0.12 7.0%	0.21 4.5%	0.02 79.4%	0.41 54.5%	-0.33 35.2%	-0.36 34.7%
	4~5回	5.69 0.09 17.9%	0.11 30.5%	0.07 42.5%	0.10 89.1%	-0.72 8.0%	-0.74 7.0%
	6回以上	5.31 0.03 65.8%	0.09 42.6%	-0.03 70.0%	0.42 52.5%	-0.12 73.4%	-0.60 12.0%
		わからない	5.08 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
転職意向	現在の仕事に満足しており転職するつもりはない	6.95 1.17 0.0%	1.17 0.0%	1.16 0.0%	1.18 3.6%	2.98 0.0%	0.65 1.2%
	現在の仕事に不満はあるが転職するつもりはない	5.27 0.49 0.0%	0.54 0.0%	0.42 0.0%	0.46 41.5%	1.90 0.1%	0.27 30.3%
	転職するつもりはないが転職せざるを得ない可能性がある	5.07 0.39 0.0%	0.39 0.0%	0.36 0.0%	-0.21 74.7%	1.00 21.0%	0.06 83.4%
	よい条件の仕事があれば転職することも考えている 積極的に転職を考えている	4.73 0.30 0.0%	0.35 0.0%	0.21 1.3%	0.28 61.5%	1.89 0.2%	0.11 63.5%
	3.68 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	
性別	男性	5.53 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
	女性	5.60 0.09 0.2%	(omitted)	(omitted)	0.00 99.0%	0.12 71.3%	-0.14 38.3%
婚姻	未婚	5.11 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
	既婚	5.89 0.21 0.0%	0.23 0.0%	0.22 0.0%	-0.04 81.3%	-0.15 54.2%	0.26 6.2%
個人年収	200万円未満	5.32 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
	200~399万円	5.60 0.02 49.9%	0.07 22.0%	-0.02 68.6%	(omitted)	(omitted)	-0.22 30.0%
	400~599万円	5.78 0.17 0.0%	0.19 0.0%	0.13 6.2%	(omitted)	(omitted)	0.27 13.5%
	600~799万円	6.12 0.19 0.1%	0.19 0.2%	0.36 1.0%	(omitted)	(omitted)	0.11 60.3%
	800~999万円	6.31 0.18 0.3%	0.22 0.1%	0.25 20.9%	(omitted)	(omitted)	0.19 52.0%
	1000~1199万円	6.38 0.17 5.1%	0.26 0.7%	-0.33 21.2%	-0.12 72.3%	-0.08 85.8%	0.06 89.4%
	1200~1499万円	7.16 0.30 0.3%	0.39 0.1%	0.09 68.9%	-0.01 97.1%	0.01 98.2%	0.39 17.3%
	1500~1999万円	6.73 0.12 50.9%	0.22 25.5%	-0.02 97.5%	-0.29 44.4%	-0.10 82.7%	0.04 96.9%
	2000~2999万円	7.33 0.29 21.0%	0.34 17.7%	0.94 1.1%	0.19 65.8%	0.44 42.1%	1.02 16.6%
3000万円以上	5.70 0.54 6.2%	0.10 80.1%	1.64 4.0%	(omitted)	(omitted)	-0.66 57.9%	
世帯預金	ゼロ	4.60 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
	0~499万円	5.48 0.01 83.2%	0.02 66.8%	-0.02 62.4%	-0.42 3.1%	-0.58 1.3%	0.11 48.5%
	500~999万円	5.74 0.12 0.5%	0.10 7.6%	0.14 3.8%	-0.25 26.5%	-0.26 34.8%	0.38 14.7%
	1000~1999万円	5.63 0.13 0.6%	0.13 4.5%	0.13 8.5%	0.05 81.8%	-0.20 49.2%	0.28 27.9%
	2000~4999万円	6.24 0.14 0.3%	0.12 3.5%	0.14 10.6%	-0.16 45.1%	-0.32 21.6%	-0.01 97.6%
	5000万円以上	6.46 0.17 3.0%	0.11 28.8%	0.20 8.5%	0.16 43.1%	0.11 65.7%	1.18 8.1%
年齢	25歳未満	5.45 baseline	baseline	baseline	baseline	baseline	baseline
	25~34歳	5.20 -0.18 1.8%	-0.28 1.6%	-0.09 34.3%	0.93 24.1%	1.47 1.1%	0.27 34.4%
	35~44歳	5.29 -0.22 0.5%	-0.37 0.2%	-0.08 40.9%	0.34 64.1%	0.52 12.7%	0.38 21.8%
	45~54歳	5.36 -0.21 0.9%	-0.40 0.1%	-0.01 90.5%	0.27 71.0%	0.45 14.2%	0.38 22.6%
	55~64歳	5.65 -0.15 7.3%	-0.31 1.1%	0.02 82.8%	0.32 66.2%	0.40 19.9%	0.42 22.8%
	65歳以上	6.06 0.17 6.9%	-0.02 88.7%	0.41 0.1%	0.05 94.5%	(omitted)	0.26 50.0%

仕事満足度は10点満点。各種満足度の平均は各項目(5点満点)の平均値。週労働時間以下の平均は各項目の仕事満足度平均。列頭の高プロは高度プロフェッショナル職、1000万円以上は個人年収、60時間以上は週労働時間、P>0.1を背景グレー、係数0.2以上と0.2未満P<=0.1をボールド。仕事満足度平均は6点以上をボールド。全分析軸共通で有意な項目はボールド。カットライン等の数値は省略。

個人年収 1000 万円以上の場合、週あたり労働時間が短い場合に満足度が低下する傾向があること以外に特徴的な項目があまりない。

高度プロフェッショナル対象者の場合は、「現在の仕事に満足しており転職するつもりがない」影響が 2.98 と際だって大きく、週あたり労働時間が 30-50 時間の場合に満足度が高まる。

(3) 政策への賛否

国会に上程されている高度プロフェッショナル制度に対する賛否を集計したものが表 3 である。「強く支持する」という意見は少ないが、女性よりも男性のほうが支持率は高く、高度プロフェッショナル対象者・個人年収 1000 万円以上の支持率が高い。全体では「どちらでもない・わからない」が多い。賛否としては、全体的には支持しないほうが多いが、高度プロフェッショナル対象者と個人年収 1000 万円以上の場合には、支持するほうが多い。

表 3 高度プロフェッショナル制度への賛否

高度プロフェッショナル制度への支持	全体	男性	女性	高プロ	1000万円以上	60時間以上
強く支持する	3.2%	4.0%	2.5%	3.4%	4.7%	4.2%
やや支持する	15.6%	16.5%	14.7%	26.3%	23.1%	13.6%
どちらでもない・わからない	57.7%	51.5%	63.7%	45.9%	47.1%	54.1%
やや支持しない	12.3%	14.2%	10.5%	12.0%	12.1%	11.0%
まったく支持しない	11.2%	13.9%	8.7%	12.4%	13.0%	17.2%
支持する-支持しない	-4.8%	-7.6%	-2.0%	5.3%	2.8%	-10.4%

表頭の高プロ：高度プロフェッショナル対象者、1000万円以上は個人年収、60時間以上は週あたり労働時間

5. 考察および結論と今後の課題

分析結果からは、幸福度に大きな影響を与えるのは「家族関係」で全体を対象とした分析結果の係数では、家族関係満足度：0.11、恋愛婚姻満足度：0.11、食生活満足度：0.08、余暇満足度：0.05 と合計すると 0.35 となる。

次に影響が大きいのは、「地域満足度」：0.11、「建物満足度」：0.08 の合計 0.19 となる住まい関連の満足度である。

それに比べて「仕事満足度」：0.03、「労働時間満足度」：0.04 を合計しても 0.07 しかなく、仕事の影響はかなり小さい。

また、婚姻・子どもは幸福度を高めるが、個人年収の影響はほとんど見られず、持ち家かどうかにも影響がない。ただし、世帯貯金は 1000 万円以上 5000 万円未満でプラスの影響がある。

週 60 時間以上の労働は、未婚・子どもなしの場合で大きなマイナスの影響が見られるが、全体に共通した傾向ではない。

仕事満足度では、「自分の成長につながる」「職場環境は安心」という項目の影響が大きい。個人年収の影響は見られるが、労働時間の影響はほとんど見られず、全体では週 70 時間以上の場合にプラスの影響がある。属性別にみても、労働時間の影響は限定的である。

そして、仕事に満足していること自体が転職意向を低めていることが分かる。

また、高度プロフェッショナル制度についての支持は高いとは言えないが、反対が圧倒的なわけでもなく、高度プロフェッショナル対象者及び個人年収 1000 万円以上では支持するが支持しないを上回っていることには留意が必要である。

このような分析結果から、労働時間の一律の規制

は、必ずしも仕事満足度を高めることにはつながらず、幸福度にもあまり寄与しない可能性が高い^{注 8)}。

また、ワークライフバランスの観点からも、労働時間を短くしたからといって必ずしも幸福度も仕事満足度も高まるわけではないことにも留意が必要である。

むしろ、労働時間の短縮に過度に注力をするよりも、「自分の成長につながる」と感じられる仕事に就くこと（マッチング）、「職場環境の安心」といったことに注力すべきだと考えられる。あまり大きくはないとはいえ仕事満足度は幸福度に影響があることは確かであるからでもある。

同時に、限定的とは言え週 70 時間以上労働している場合に仕事満足度が高まる場合があることにも留意が必要である。それは必ずしも高度プロフェッショナル制度に直結するわけではないが、「自分の成長につながり」「職場環境が安心」で一定程度以上の年収が確保されている場合には、「労働」は苦役ではなく、自己実現である場合もあるからである。

今後の課題には以下のようなものが考えられる。今回の分析では、仕事満足度に対する定性的な項目（職場の安心感など）が 5 項目しか設定されていないが、この他にも多様な項目が影響している可能性があり、項目を増やして分析することである。

また、職種・業種や企業規模、個々人の資格やスキルといったさらに詳細な条件を加えた場合に、仕事満足度がどのように変化していくのかも分析する必要がある。

参考文献

- 1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎：日本の幸福度，日本評論社，2010.7
- 2) 大藪陽子：IT エンジニアの職務満足度に関する実証研究，イノベーション・マネジメント No. 6, 2009
- 3) 浅野博勝・権丈英子：勤労時間と満足度-日英独の比較研究-，RIETI Discussion Paper Series 11-J-037, 2011.3
- 4) リクルートワークス研究所(2016)：全国就業実態パネル調査(JPSED)，2016.5
- 5) 本田由紀(2011)：軋む社会-教育・仕事・若者の現在，河出書房新社，2011.6

補注

- 注 1) 「総務省統計局『労働力調査』のデータをもとに、性別、年齢階層別、就業形態別、地域ブロック別、学歴別の割付を行った。割付は母集団を反映するように設計」とされており設計委員会が設置されている。
- 注 2) 「孫あり」が有意ではないというのは不自然に感じるが、さらに細かく分析すると同居している場合にマイナスの影響が強く、遠距離の場合にプラスの影響が強いという結果で、全体では打ち消しあって有意ではなくなっている。
- 注 3) 個人貯金ではなく世帯貯金を説明変数に用いているのは、設問設計ミスで個人貯金を聴取していないためである。
- 注 4) 労働時間別にみると 20 時間未満：6.83 に対して 20-40 時間：6.56、40-60 時間：6.55 と 60 時間以上の 6.46 が大幅に低いわけではないことには注意が必要である。
- 注 5) 基礎的な分析では雇用形態・週あたり労働日数・子どもの有無・学歴について影響はほとんどなかった。
- 注 6) 管理職・教職員講師・医療専門職・その他専門職でかつ個人年収 1000 万円以上としている。対象件数は 266 件、比率は 2.09%。
- 注 7) 本田由紀(2011)⁵⁾参照。
- 注 8) もちろん、過重労働による過労死の抑制は、極めて重要な課題であり、単純・低賃金労働での労働時間規制は必要であることには変わりはない。